

令和 6 年度シラバス
(令和 5 年度入学生)



第 2 学年

茨城県立下妻第二高等学校

令和 6 年度教育課程編成表

学校 番号	76	学校名	茨城県立下妻第二高等学校				学校長名		島根 千春							
		課程名	全日制		学科名		普通科		令和 5年 4月 入学生徒用							
		類型または学科名 単位数または時数 教科 科 目	文Ⅰコース				文Ⅱコース				理コース					
			総単 位数	学年配当			総単 位数	学年配当			総単 位数	学年配当				
1	2	3		1	2	3		1	2	3						
国 語	現 代 の 国 語	2	2				2	2				2	2			
	言 語 文 化	3	3				3	3				3	3			
	論 理 国 語	4			2	2	4			2	2	4			2	2
	文 学 国 語	4			2	2	4			2	2					
	古 典 探 究	4			2	2	4			2	2	4			2	2
地理歴史	地 理 総 合	2			2		2			2		3				3
	歴 史 総 合	2	2				2	2				2	2			
	日 本 史 探 究	0, 6			2	4	0, 6			2	4					
	世 界 史 探 究	0, 6					0, 6									
	* 歴 史 探 究	1				1	1				1					
公 民	公 共	2	2				2	2				2	2			
	政 治 ・ 経 済	3				3	2				2					
数 学	数 学 Ⅰ	3	3				3	3				3	3			
	数 学 Ⅱ	4, 6			4		4			4		4, 8			4	
	数 学 Ⅲ					2						0, 4				4
	数 学 A	2	2				2	2				2	2			
	数 学 B						2				2	2				2
	数 学 C						2				2	2			2	
理 科	物 理 基 礎											0, 3				
	物 理											0, 5			3	
	化 学 基 礎	2	2				2	2				2	2			5
	化 学											6			3	
	生 物 基 礎	2, 4			2		4			2	2	0, 3				
	生 物											0, 5				
	地 学 基 礎	2			2		2, 4			2		2			2	
	* 化 学 探 究						0, 2				2					
保健体育	体 育	8	3		2	3	7	3		2	2	7	3		2	2
	保 健	2	1		1		2	1		1		2	1		1	
芸 術	音 楽 Ⅰ	0, 2					0, 2					0, 2				
	音 楽 Ⅱ	0, 2		2					2					2		
	書 道 Ⅰ	0, 2				2	0, 2					0, 2				
	書 道 Ⅱ	0, 2														
外 国 語	英語コミュニケーションⅠ	3	3				3	3				3	3			
	英語コミュニケーションⅡ	4			4		4			4		4			4	
	英語コミュニケーションⅢ	4				4	4				4	4				4
	論 理 ・ 表 現 Ⅰ	2	2				2	2				2	2			
	論 理 ・ 表 現 Ⅱ	2			2		2			2		2			2	
	論 理 ・ 表 現 Ⅲ	3				3	2				2	2				2
家 庭	家 庭 基 礎	2	2				2	2				2	2			
情 報	情 報 Ⅰ	2			2		2			2		2			2	
	* 情 報 活 用 実 践	1				1										
共 通 科 目 の 履 修 単 位 数 計			87	29		29	29	87	29		29	29	87	29		29
総合的な探究の時間			3	1		1	1	3	1		1	1	3	1		1
履 修 単 位 数 合 計			90	30		30	30	90	30		30	30	90	30		30
ホームルーム活動の週当たり配当時間			3	1		1	1	3	1		1	1	3	1		1
組 数			4				1				2					
											授業の1 単位時間				学期制	
											50 分				二学期	

1

令和6年度 国語科 論理国語 シラバス

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	論理国語	単位数	2	履修学年・区分	2 学年
使用する教科書	「探究 論理国語」(桐原書店)				
副教材	「探究 論理国語 準拠 予習復習ノート」(桐原書店)				

2 学習目標

(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 学習方法

- ・予習復習ノートや辞書、その他の教材を活用して家庭学習を自主的に取り組み、理解を深める。
- ・教材を通して、思考を深めたり関心を広げたりし、自ら新聞等を活用することで見識を深める。
- ・定期考査をはじめ、小テスト(漢字や語句など)や提出物(課題・授業プリント・感想文・レポート)を確実にこなしていく。

4 学習内容

学期	区 分	学習内容／評価範囲	学習のねらい
前期	中間考査	評論Ⅰ「いのちは誰のものか？」	論理展開を丁寧にたどる姿勢と力を養う。
		評論解析 A「『もどかしさ』の融合」	具体例の働きを理解して、論旨や筆者の主要な見解をつかむ。
	期末考査	評論Ⅱ「動物の信号と人間の言語」	二項対立による比較対象に着目し、評論の読み方を習得する。
		体験と思索「カフェの開店準備」	体験をもとにした文章を読み、筆者の思索の推移をたどる。
後期	中間考査	書く「世界の見方を変える」	「書く」「読む」力について理解を深める。
		評論解析 B「『物語』としての伝統」	接続表現から文脈を捉え、論理展開を把握する。
	学年末考査	評論解析 B「資本の出現」	指示表現が指す内容を明らかにすることで、本文内容を的確に捉える。
		評論Ⅲ「イスラム感覚」	世界の言語や文字に対して関心を持つ。
		評論Ⅳ「ロボットは心を持つか」 社会「『である』ことと『する』こと」	論の形式や展開の仕方について理解を深める。 資料との関係を把握して内容や構成を的確に捉え、自分の考えを明確に論述できるようにする。

5 学習評価

評価項目	観点①	観点③	観点⑤
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察	○	○	○
発表	○	○	○
提出物			○
レポート		○	○
小テスト	○		
定期考査	○	○	
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

国語は語学であり、日頃からの積み重ねが必要です。常に心のアンテナを高くし、世間のニュースや話題に関心をもち生活しましょう。尊いもの、精度が高いもののほど得るのに時間と手間がかかります。漢字検定や小論文模試にも意欲的に取り組んで下さい。

令和6年度 国語科 文学国語 シラバス

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	文学国語	単位数	2	履修学年・区分	2学年文系(5クラス)
使用する教科書	「探求 文学国語」(桐原書店)				
副教材	「『探求文学国語』準拠 予習復習ノート」(桐原書店)				

2 学習目標

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 学習方法

- ・副教材や辞書を活用して予習に努め、単元の終わりには学習課題集を家庭学習し、理解を深める。
- ・教材を通して、思考を深めたり関心を広げたりし、自ら図書館等を活用することで見識を深める。
- ・定期考査をはじめ、小テスト(漢字や語句など)や提出物(課題・授業プリント・感想文・レポート)に主体的に取り組むことで言語による表現力を養う。

4 学習内容

学期	区 分	学習内容／評価範囲	学習のねらい
前期	中間考査	「感触—世界のリアル」(保坂和志)	筆者のものの見方・感じ方を理解する。 小説・文学の意義について考えるきっかけを得る。
		「途中下車」(山田詠美)	登場人物の関係性や時代背景に着目しながら、小説を読む基本的な方法を習得する。
	期末考査	「山月記」(中島敦)	登場人物の行動や心理を的確に把握しながら内容を理解し、人間の存在についての考えを深める。
		「永訣の朝」(宮沢賢治) 「サーカス」(中原中也)	詩を読む基本的な方法を習得する。 自身の言語力を高め、ものの見方を深める。
後期	中間考査	「アイデンティティ」(藤野可織)	奇抜な設定のうえに成り立つ小説を丁寧に読み解き、作品に込められた主題を考える。
		「靴の話」(大岡昇平) 「根府川の海」(茨木のり子)	戦時期における青少年の心理状態を読み取る。 戦争の人生への影響を自身に引き寄せて考える。
	学年末考査	「日曜日はどこへ」(川上未映子)	浮遊感のある小説を時間軸に沿って丁寧に読み進め、心情を的確に読み取り、先の展開も想像する。
		「こころ」(夏目漱石)	作品構造を理解し、場面展開や登場人物の心理変化を捉える。近代人の心について考えをまとめる。

5 学習評価

評価項目	観点①	観点③	観点⑤
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察	○	○	○
発表	○	○	○
提出物			○
レポート		○	○
小テスト	○		
定期考査	○	○	
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(当者から)

様々な文学作品に触れながら、深く共感したり豊かに想像したりする経験を積んでいきましょう。そのためには、授業以外で積極的に図書館を利用して読書に親しむことも大切です。また、創作活動等を通じて語感を磨き、語彙をさらに豊かにしていくことを目指して取り組んでください。

令和6年度 国語科 古典探究 シラバス

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	古典探究	単位数	2	履修学年・区分	2 学年
使用する教科書	「高等学校 精選古典探究」(第一学習社)				
副教材	「精選古典探究 学習課題集」(第一学習社)／「完全マスター古典文法」(第一学習社)／「古文単語330」(いっずな書店)				

2 学習目標

(1) 必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 学習方法

- ・単語の区切れや歴史的仮名遣いに気をつけながら、教科書を繰り返し音読する。
- ・辞書や副教材を使い、基本的な古文単語や文法事項、漢文の句形を確実に覚えていく。
- ・定期考査をはじめ、小テスト(毎週の古文単語テスト等)や提出物(課題／授業プリント／感想文／レポート等)を確実にこなしていく。

4 学習内容

学期	区 分	学習内容／評価範囲	学習のねらい
前 期	中間考査	説話『古今著聞集』『沙石集』 随筆『徒然草』『方丈記』 故事「推敲」「呉越同舟」	文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 言葉の成り立ちについての理解を深める。
	期末考査	物語『伊勢物語』『初冠』『渚の院』『小野の雪』 史話「鶏鳴狗盗」「読孟嘗君伝」 名家の文章「雑説」「売油翁」	文章の中で和歌が重要な役割を果たす歌物語の特徴について、理解を深めて読み味わう。 先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。
後 期	中間考査	随筆『枕草子』 物語『源氏物語』『光る君誕生』 史記「鴻門之会」「四面楚歌」 漢詩「李白」「王維」	古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意しながら内容を的確に捉える。
	学年末考査	日記『蜻蛉日記』『更級日記』 物語『平家物語』 説話「織女」「売鬼」 諸家の思想『孟子』『老子』	作品の成立した背景や他作品との関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深める。 漢文を読み、その内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている

5 学習評価

評価項目	観点①	観点③	観点⑤
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察	○	○	○
発表	○	○	○
提出物			○
レポート		○	○
小テスト	○		
定期考査	○	○	
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(当事者から)

古典の学習では音読が大切です。伝統的な言語文化や言葉の特徴やきまりに対する苦手意識をなくしましょう。古人のものの見方や感じ方に学ぶことも多いはず。まずは日々の授業にしっかりと取り組みましょう。ますます予習が大切になります。単語を事前に調べる等積極的に行いましょう。

令和6年度 地理歴史科 地理総合の学習(シラバス)

1. シラバス・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

教科名	地理総合	単位数	2	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	高等学校 新地理総合(帝国書院)				
副教材等	デジタル準拠ノート 高等学校新地理総合 書籍+デジタルセット(帝国書院)				

2. 学習目標

社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。

3. 学習方法

教科書、資料集、視聴覚教材やタブレットによるデジタル学習を多角的に活用して授業を展開し

4. 学習方法

学期	区分	学習内容、評価範囲等
前期	中間考査	【第1部 地図でとらえる現代世界】 第1章 地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差 2節 地図の役割と種類
	期末考査	第2章 結び付きを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界 【第2部 国際理解と国際協力】 第1章 生活文化の多様性と国際理解 序説 生活文化の多様性 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活 3節 世界の言語・宗教と人々の生活
後期	中間考査	4節 歴史的背景と人々の生活 5節 世界の産業と人々の生活第 2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題 3節 資源・エネルギー問題
	期末考査	4節 人口問題 5節 食料問題 6節 都市・居住問題 【第3部 持続可能な地域づくりと私たち】 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え

5. 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
授業観察	○	○	○
小テスト	○		
提出物		○	○
定期考査	○	○	○

6. 担当者からのメッセージ

国家の歴史の裏には、その国ならではの地理条件があり、他国との関係がある。歴史を知るということは、地理を知ること。地理を知るとは、歴史を知ること。このような関係性があることを押さえたうえで、学習に取り組んでください。
--

令和6年度 社会科 日本史探究の学習(シラバス)

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	日本史探究	単位数	2	履修学年・区分	第2学年 文コース
使用する教科書	詳説日本史(山川出版社)				
副教材等	新詳日本史(浜島書店)、ゼミナール日本史(浜島書店)				

2 学習目標

日本史探究では、我が国の文化と伝統の特色に対する認識を歴史総合での学習内容と関連付けながら総合的に理解し、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養うことを目標とする。また、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

3 学習方法

教科書、資料集、視覚教材を活用し、知識を習得したうえで、グループワークやアクティブラーニングを積極的に取り入れ、体系的理解を図る。

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲等
前期	中間考査	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権
	期末考査	第3章 律令国家の形成 第4章 貴族政治の展開
後期	中間考査	第5章 院政と武士の躍進 第6章 武家政権の成立
	期末考査	第6章 武家政権の成立 第7章 武家社会の成長

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等		○	○
提出物・レポート等	○	○	○
定期考査・小テスト	○	○	
重み	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

歴史上の様々な出来事は、いろいろな因果関係が複雑に影響しあって成り立っているものです。種々の史料を活用し考察を深めていく中で、歴史のおもしろさや知ることの楽しさを味わってほしいと思います。過去を知ることによって今を理解し、未来を生きる力を培う、それこそが歴史を学ぶ意義です。

令和6年度 地理歴史科 世界史探究の学習(シラバス)

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	世界史探究	単位数	2	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	『世界史探究』(実教出版)				
副教材等	『世界史探究 マイノート』(実教出版)				

2 学習目標

今年度の授業では、以下のことを目指します。

- ①日本を含めた様々な世界の歴史について基礎的な知識を身に付けること
- ②歴史的思考力を涵養し、社会的事象の因果関係や相関関係などを透徹すること
- ③世界史に興味・関心を抱き、積極的に身近なものや概念の成立過程に着目できるようになること

3 学習方法

上記の学習目標を達成するために状況に応じた学習方法を採用します。

- ①の目標を達成するためには講義形式、小テストなどを、②では生徒同士による対話的・協同的な学びを採用します。また、③の能力を養うために日常生活世界と世界史を関連させる課題や発問

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲等
前期	中間考査	1章「古代文明」 2章「東アジアと中央ユーラシア」
	期末考査	3章「南アジアと東南アジア」
後期	中間考査	4章「西アジアと地中海周辺」
	期末考査	5章「西アジア・地中海周辺の変動とヨーロッパの形成」

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等		○	○
提出物・レポート等	○	○	
定期考査・小テスト	○		○
重み	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

例えば、日本が江戸時代だった頃、世界にはどのような景色が広がっていたのでしょうか。「ヨコの歴史」に興味を持つことは世界を知ることにつながります。この授業を通して、世界に視野を広げ、幅広い視点を持つことの大切さを学んでほしいと思います。

令和6年度 数学科 数学Ⅱの学習(シラバス)

1 科目・使用教科書

科目名	単位数 4 単位
履修学年	第2学年文系クラス 使用教科書 数学Ⅱ(数研出版)
副教材	クリアー数学Ⅱ 新課程 教科書傍用

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える素質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2)数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。

(3)数学のよさを認識し数学を活用する態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 学習方法

基本的に講義形式が中心となります。反復演習が大切になります。講義→演習→復習→定着という流れを身に付けてください。

4 学習内容

学期	区分	学習内容／評価範囲	学習のねらい
前期	中間考査	数学Ⅱ 第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式 (1) 複素数 (2) 2次方程式の解と判別式	・3次式の展開の公式と因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をしようとする。 ・パスカルの三角形の対称性やそこに現れる数の並び、およびそれらと二項係数の関係に興味をもって調べようとする。
	期末考査	数学Ⅱ 第2章 複素数と方程式 (3) 解と係数の関係 (4) 剰余の定理と因数定理 (5) 高次方程式 第3章 図形と方程式 (1) 点と直線 (2) 円 (3) 軌跡と領域	・連立方程式の解の状況を、2直線の位置関係から考察することができる。 ・2直線の交点を通る直線の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。 ・線形計画法では、条件として与えられた不等式の表す領域を図示することにより、鮮やかに最大値・最小値を求めることができることに興味・関心をもつ。
後期	中間考査	数学Ⅱ 第4章 三角関数 第5章 指数関数と対数関数 指数の拡張、指数関数	・指数関数のグラフの概形特徴を理解している。 ・指数関数の増減によって、大小関係や不等式・方程式を考察することができる。
	学年末考査	数学Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数 (対数の性質、対数関数)	・正の数を $a \times 10^n$ の形に表現して、対数の値を求めることができる。 ・底の変換公式を用いることによって、どの対数も常用対数で表現することができる。
	学年末考査以降	数学Ⅱ 第6章 微分法と積分法	・導関数を利用して、関数の増減を調べることができる。

5 学習評価

評価項目	観点①	観点③	観点⑤
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察	○	○	○
提出物	○	○	○
小テスト	○		
定期考査	○	○	
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

数学は積み重ねが大切です。基本事項を1つ1つ身に付けることによってできるようになっていきます。テスト直前に勉強する科目ではありません。毎日の復習をすることが一番の近道です。定期試験、課題テスト等を目標にして準備していきましょう。

令和6年度 数学科 数学Ⅱの学習(シラバス)

1 科目・使用教科書

科目名	単位数 4 単位
履修学年	第2学年理系クラス 使用教科書 数学Ⅱ(数研出版)
副教材	4プロセス数学Ⅱ 新課程 教科書傍用

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える素質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2)数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。

(3)数学のよさを認識し数学を活用する態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 学習方法

基本的に講義形式が中心となります。反復演習が大切になります。講義→演習→復習→定着という流れを身に付けてください。

4 学習内容

学期	区 分	学習内容／評価範囲	学習のねらい
前期	中間考査	数学Ⅱ 第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式 (1) 複素数 (2) 2次方程式の解と判別式	・3次式の展開の公式と因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をしようとする。 ・パスカルの三角形の対称性やそこに現れる数の並び、およびそれらと二項係数の関係に興味をもって調べようとする。
	期末考査	数学Ⅱ 第2章 複素数と方程式 (3) 解と係数の関係 (4) 剰余の定理と因数定理 (5) 高次方程式 第3章 図形と方程式 (1) 点と直線 (2) 円 (3) 軌跡と領域	・連立方程式の解の状況を、2直線の位置関係から考察することができる。 ・2直線の交点を通る直線の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。 ・線形計画法では、条件として与えられた不等式の表す領域を図示することにより、鮮やかに最大値・最小値を求めることができることに興味・関心をもつ。
後期	中間考査	数学Ⅱ 第4章 三角関数 第5章 指数関数と対数関数 指数の拡張、指数関数	・指数関数のグラフの概形特徴を理解している。 ・指数関数の増減によって、大小関係や不等式・方程式を考察することができる。
	学年末考査	数学Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数 (対数の性質、対数関数)	・正の数を $a \times [10]^n$ の形に表現して、対数の値を求めることができる。 ・底の変換公式を用いることによって、どの対数も常用対数で表現することができる。
	学年末考査以降	数学Ⅱ 第6章 微分法と積分法	・導関数を利用して、関数の増減を調べることができる。

5 学習評価

評価項目	観点①	観点③	観点⑤
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察	○	○	○
提出物	○	○	○
小テスト	○		
定期考査	○	○	
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

数学は積み重ねが大切です。基本事項を1つ1つ身に付けることによってできるようになっていきます。テスト直前に勉強する科目ではありません。毎日の復習をすることが一番の近道です。

定期試験、課題テスト等を目標にして準備していきましょう。

令和6年度 数学科 数学Cの学習(シラバス)

1 科目・使用教科書

科目名	単位数 2 単位
履修学年	第2学年理系クラス 使用教科書 数学C (数研出版)
副教材	4プロセス数学C 新課程 教科書傍用

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次の通りに育成することを目指す。

(1) ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統一的・発展的に考察する力、数学的に表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 学習方法

基本的に講義形式が中心となります。反復演習が大切になります。講義→演習→復習→定着という流れを身に付けてください。

4 学習内容

学期	区 分	学習内容／評価範囲	学習のねらい
前期	中間考査	数学C 第1章 平面上のベクトル (1) 平面上のベクトルと演算 (2) ベクトルと平面図形	・有向線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解している。 ・点の位置を、基準となる点と1つのベクトルを用いて表すことができることを理解している。
	期末考査	数学C 第2章 空間のベクトル 第3章 複素数平面	・空間における図形を、座標を利用して示すことができる。 ・複素数平面の定義を理解し、複素数を表す点を複素数平面上に記すことができる。
後期	中間考査	数学C 第4章 式と曲線 (1) 放物線 (2) 楕円	・放物線が、焦点と準線からの距離が等しい点の軌跡であることを理解している。 ・軌跡の考え方を利用して、放物線の方程式を導くことができる。
	学年末考査	数学C (3) 双曲線 (4) 2次曲線の平行移動 (5) 2次曲線と直線 (6) 2次曲線の性質	・双曲線が、2つの焦点からの距離の差が一定である点の軌跡であることを理解している。 ・曲線の方程式の媒介変数表示に興味、関心をもち、媒介変数で表された曲線がどのような曲線であるかを調べようとする。
		数学C (7) 曲線の媒介変数表示 (8) 極座標と極方程式 (9) コンピュータのいろいろな曲線	・曲線が媒介変数を用いて表される仕組みを理解している。 ・点の座標について、直交座標と極座標を相互に変換できる。 ・2次曲線を極方程式で表すと、離心率を用いて簡潔に表されることに興味、関心をもち、考察しようとする。

5 学習評価

評価項目	観点①	観点③	観点⑤
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察	○	○	○
提出物	○	○	○
小テスト	○		
定期考査	○	○	
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

数学は積み重ねが大切です。基本事項を1つ1つ身に付けることによってできるようになっていきます。テスト直前に勉強する科目ではありません。毎日の復習をすることが一番の近道です。

定期試験、課題テスト等为目标にして準備していきましょう。

令和6年度 理科 物理基礎の学習（シラバス）

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	物理基礎	単位数	3	履修学年・区分	2年・理コース
使用する教科書	数研出版 物理基礎				
副教材等	リードLightノート 物理基礎				

2 学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。

3 学習方法

演示実験を見ながら自然現象に対し興味関心を持つ。復習（特に問題演習）を十分に行って、理解を深め、知識を定着する。

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲等
前期	中間考査	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1. 速度 2. 加速度 3. 落体の運動
	期末考査	第2章 運動の法則 1. 力とのはたらき 2. 力のつりあい 3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力
後期	中間考査	第3章 仕事と力学的エネルギー 1. 仕事 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギーの保存 第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 1. 熱と物質の状態 2. 熱と仕事
	期末考査	第3編 波 第1章 波の性質 1. 波と媒質の運動 2. 波の伝わり方 第2章 音 1. 音の性質 2. 発音体の振動と共振・共鳴 第4編 電気 第1章 物質と電気 1. 電気の性質 2. 電流と電気抵抗 3. 電気とエネルギー 第2章 磁場と交流 1. 電流と磁場 2. 交流と電磁波 第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用 1. エネルギーの移り変わり 2. エネルギー資源と発電

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等		○	○
提出物・レポート等	○	○	○
定期考査・小テスト	○	○	
重み	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

図を描いて、現象をしっかりとイメージし、理解を深めよう。
授業でわからないところがある場合は、早めに気軽に質問して下さい。
「観察したり、理解したりする喜びは、自然からの最大の贈り物だ」
(アルベルト・アインシュタイン)

令和6年度 理科 化学の学習(シラバス)

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	化学	単位数	3	履修学年・区分	2学年・理系クラス
使用する教科書	数研出版『化学』				
副教材等	数研出版『リードα』				

2 学習目標

・化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。 ・物質とその変化について、化学的な解釈や説明ができることを通して、興味・関心を探究心にまで高め、知的好奇心をもって問題を見だし、主体的に解決しようとする意欲を高める。 ・生徒自身が課題を見つけ、主体的・意欲的に観察、実験などに取り組む。 ・探究の過程をたどらせることによって、科学の方法を習得させ、化学的に探究する能力や態度を育てる。 ・化学的な事物・現象に関する基礎的な知識および基本的な概念や原理・法則を、深く系統的に理解させる。 ・物質やその変化に関する原理・法則を系統的に理解し、正しい物質感を身に付けさせ、他の科目

3 学習方法

講義形式の授業を中心に実験、演習も行います。予習、復習を十分に行って、理解を深め、知識を定着させて下さい。また、目的意識を持って積極的に実験、演習に取り組んで下さい。

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲等
前期	中間考査	第1編 物質の状態 第1章 物質の状態 第2章 物質の三態と状態変化 第3章 気体
	期末考査	第1編 物質の状態 第4章 溶液 第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー
後期	中間考査	第2編 物質の変化 第2章 電池と電気分解 第3章 化学反応と速さのしくみ 第4章 化学平衡
	期末考査	第3編 無機物質 第1章 非金属元素 第2章 金属元素(Ⅰ)

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等	○	○	○
提出物・レポート等	○	○	○
定期考査・小テスト	○	○	
重み	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

化学基礎で学習した内容を基に、より難しい概念や複雑な計算を学習します。つまづきが化学基礎に比べて起きやすいので、復習をしっかりとし、少しでも疑問に思うところがあったら放置せず授業担当者に質問するようにして下さい。 また、実験での一つひとつの操作の意味を考え、物質の色や性質などの変化を積極的に観察し、知識として定着できるようにして下さい。

令和6年度 理科 生物基礎の学習（シラバス）

1 シラバス・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

教科名	生物基礎	単位数	2	履修学年・区分	2 学年・文系クラス
使用する教科書	実教出版 生物基礎				
副教材等	セミナー生物基礎 スクエア最新図説生物 エブリィノート				

2 学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

3 学習方法

講義形式の授業を中心に観察、実験も行います。予習はもちろん重要ですが、復習を十分に行って、理解を深め、知識を定着させて下さい。また、目的意識を持って積極的に観察、実験に取り組んで下さい。

4 学習内容

学期	区分	学習内容、評価範囲等
前期	中間考査	第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. 生物とエネルギー
	期末考査	第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝現象とDNA 2. 遺伝情報とタンパク質の合成
後期	中間考査	第3章 ヒトのからだの調節 1. 体内環境 2. 体内環境の維持のしくみ 3. 免疫
	期末考査	第4章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移 2. 植生とバイオーム 3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系のバランスと保全

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等	○	○	○
提出物・レポート等	○	○	○
定期テスト・小テスト	○	○	
重み	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 担当者からのメッセージ

授業をしっかり聞いて、わからないところがある場合は、早めに気軽に質問して下さい。単元ごとにおこなう小テストで基本的な知識を確実に身につけて下さい。さらに、定期考査では目標を定めてしっかり準備して下さい。観察、実験は積極的に行い、実験技術の習得に努めるとともに、自然や生物に親しみ、興味と関心を持つようにして下さい。

令和6年度 理科 生物基礎の学習（シラバス）

1 シラバス・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

教科名	生物基礎	単位数	3	履修学年・区分	2年理系選択
使用する教科書	実教出版 生物基礎				
副教材等	エブリィノート セミナー生物基礎 二訂版スクエア最新図説生物				

2 学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生命現象について理解するとともに、目的意識をもって観察、実験などを行う。生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、概念や原理・法則を理解させ、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

3 学習方法

講義やIT活用の授業を行い、観察、実験も行う。予習はもちろん重要ですが、復習を十分に行って、理解を深め、知識を定着させ、また、目的意識を持って積極的に観察、実験に取り組んで下さい。

4 学習内容

学期	区分	学習内容、評価範囲等
前期	中間考査	第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. 生物とエネルギー
	期末考査	第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝現象とDNA 2. 遺伝情報とタンパク質の合成
後期	中間考査	第3章 ヒトのからだの調節 1. 体内環境 2. 体内環境の維持のしくみ 3. 免疫
	期末考査	第4章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移 2. 植生とバイオーム 3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系のバランスと保全

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等	○	○	○
提出物・レポート等	○	○	○
定期テスト・小テスト	○	○	
重み	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 担当者からのメッセージ

毎時間、授業をしっかり受けること。わからないところがある場合は、早めに気軽に質問して下さい。单元ごとにおこなう小テストで基本的な知識を確実に身につけて下さい。さらに、定期考査では目標を定めてしっかり準備して下さい。観察、実験は積極的に行い、実験技術の習得に努めるとともに、自然や生物に親しみ、興味と関心を持つようにして下さい。

令和6年度 理科 地学基礎の学習(シラバス)

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	地学基礎	単位数	2	履修学年・区分	2学年 全クラス
使用する教科書	高等学校 地学基礎 (数研出版)				
副教材等	スクエア最新図説地学(第一学習社)、リードLightノート地学基礎(数研出版)				

2 学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・原則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。□

3 学習方法

講義形式の授業中心。副教材の問題集等を利用した復習により、内容理解・知識定着をさせる。

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲等
前期	中間考査	第1編 活動する地球 第1章 地球の構造 1. 地球の形と大きさ 2. 地球の構造
	期末考査	第2章 プレートの運動 1. プレートテクトニクスと地殻変動 2. プレート運動のしかた 第3章 地震 1. 地震 2. 地震の分布 3. 地震災害
後期	中間考査	第4章 火山 1. 火山活動 2. 火成岩 3. 火山がもたらす恵みと災害 第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支 1. 大気の構造
	期末考査	第2章 大気と海水の運動 3. 日本の天気と気象災害 第4編 地球の環境 第1章 地球の環境と日本の自然環境 1. 気候の自然変動 2. 人間活動による環境変化 3. 日本の自然環境

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等		○	○
提出物・レポート等	○	○	○
定期考査・小テスト	○	○	○
重み	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

地学は、「図や表、グラフがどんな情報を表しており、そこから何がわかるのか」を読み解くことが大切です。学習は授業を軸にして問題集等で復習をしっかり行ってください。
地学には、日本ではよく起こる「地震」「火山」「台風」等の災害に関する内容もあり、そのような自然観を養う教科でもあります。学習を通してそのような自然現象等に興味や関心を持ってください。

令和6年度 保健体育科 体育シラバス

1. シラバス・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

教科名	体 育	単位数	2単位	履修学年・区分	2学年・全クラス
使用する教科書					
副教材等					

2. 学習目標

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康、安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

3. 学習方法

選択球技種目については、ゴール型・ネット型・ベースボール型から選択履修する。
器械運動については、マット運動を行う。また、陸上競技では、「跳ぶ」、「投げる」の種目を行う。
持久走については、体力の向上と心肺機能の発達を図るとともに最後まで走りきる精神力を養う。

4. 学習方法

学期	区分	学習内容
前期	4月	体づくり運動・選択球技種目①
	5月	
	6月	選択球技種目②
	7月	
	9月	器械運動・陸上競技選択
後期	10月	
	11月	持久走
	12月	
	1月	選択球技種目③
	2月	
	3月	

5. 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
球技	○		○
器械運動・陸上競技	○	○	○
持久走	○		○
重み	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

5. 担当者からのメッセージ

各種目の技能を評価するだけでなく、苦手種目でも克服しようと努力する意欲・態度を大きく評価します。
また、集合整列、準備片付け、服装、授業態度が評価に大きく影響するので、担当の先生の指導にしっかりと従うこと。

令和6年度 保健体育科 保健シラバス

1 シラバス・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

教科名	保健体育	単位数	1単位	履修学年・区分	2学年・全クラス
使用する教科書	新高等保健体育(大修館)				
副教材等	新高等保健体育ノート(大修館)				

2. 学習目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

3. 学習方法

教科書・保健ノートを中心とした一斉授業の他、心肺蘇生法の実習やインターネット等を使用した調べ学習を行い、単なる知識理解だけではなく、実生活に役立てる知識を得られるようにする。

4. 学習方法

学期	区分	学習内容、評価範囲等
前期	4月	第3章 生涯を通じる健康 思春期と健康 ～ 働く人の健康づくり
	5月	
	6月	
	7月	
	9月	
後期	10月	第4章 健康を支える環境づくり 大気汚染と健康 ～ 誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり
	11月	
	12月	
	1月	
	2月	
	3月	

5. 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査(2回)	○	○	
保健ノート	○		○
提出物		○	○
重み	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。 それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

5. 担当者からのメッセージ

定期考査(2回)の結果が評価の大きなウエイトを占めています。しかし、ノートや提出物の提出も重要です。提出が不十分だと、評価が大きく下がります。
また、普段の授業の態度が定期テストの結果にも影響しますので、授業中の取り組み方には十分注意して下さい。

令和6年度 英語コミュニケーションⅡの学習(シラバス)

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4	履修学年・区分	2年全クラス
使用する教科書	東京書籍 Power On English CommunicationⅡ				
副教材等	ワークブック等補助教材、英単語教材、リスニング教材、英文法・語法問題集				

2 学習目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解し、他者に適切に伝える能力を養う。学習した語彙力、文法・語法の知識を基礎に、読解力と表現力の向上を目指す。

3 学習方法

予習→授業→復習が英語学習の基本です。言語活動を中心に授業が展開され、4技能をバランス良く習得するための活動を行います。ペア活動やグループ学習などに積極的に取り組んでください。授業で学習した語彙や表現を用いて、自分の考えを整理したり、他者に伝えたりする機会もあります。また、「話すこと[やり取り]」を通じて、自分の答えを探し「話すこと[発表]」や「書くこと」で表現するという流れを重視した授業展開をしていきます。

4 学習内容

学期	区分	学習内容/評価範囲等
前期	中間考査	LESSON 1 Play Me, I'm Yours LESSON 2 Ethical Fashion
	期末考査	LESSON 3 One for All, All for One LESSON 4 Vending Machines LESSON 5 Design for Connecting Society: Braille Neue
後期	中間考査	LESSON 6 New Banknotes LESSON 7 Some Secrets about Colors LESSON 8 Powered <i>Natto</i> Solves a Global Water Problem
	期末考査	LESSON 9 Flying after Her Dreams LESSON 10 To Work or Not to Work? Humans and Robots

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等	○	○	○
提出物・レポート等			○
定期考査・小テスト	○	○	○
重み	○印はそれぞれの観定の重点項目を表しています。それぞれの観定ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート(担当者から)

現代社会を捉えた新鮮な題材を通じて語彙力、文法力、読解力を向上させ、考えや意見を他者に伝える力を養っていきましょう。また、授業中の言語活動を通し、コミュニケーション力を伸ばしていきましょう。本文理解はもちろん、内容に関係する時代背景や社会問題にも目を向けることで視野が広がります。さらに、生徒相互における情報交換や意見共有の活動に積極的に取り組むことで価値観が豊かになり、グローバル社会に対応できる幅広い能力を育むことが期待できます。
“Slow but steady wins the race!(継続は力なり)”

令和 6 年度 英語科 論理表現Ⅱ シラバス

1 科目・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

科目名	英語表現Ⅱ	単位数	2	履修学年・区分	2 年全クラス
使用する教科書	MY WAY Logic and Expression Ⅱ (三省堂)				
副教材	ワロクブック□□□□□				

2 学習目標

話すこと：与えられたテーマについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝えたり、論理の構成や展開を工夫して詳しく伝えたりできる力を養う。
書くこと：与えられたテーマについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えを整理し、論理の構成や展開を工夫して詳しく書くことができる力を養う。

3 学習方法

学習した文法や表現を使って自分の意見を書いて伝えることができるように、各 Lesson とも、文法解説、Practice、既習の文法・表現を使っての output 活動というパターンで学習していきます。

4 学習内容

学期	区 分	学習内容／評価範囲	学習のねらい
前 期	中間考査	Lesson 1 I Love My Country! Lesson 2 The New Wave of Sports	次の表現を用いて情報や自分の考え等を伝える。 ・現在完了形、過去完了形、未来を表す表現 ・助動詞を用いた表現や予定を表す表現 ・助動詞＋have＋過去分詞、be 動詞＋to 不定詞
	期末考査	Lesson 3 The Future of Technology Lesson 4 Rediscover Kabuki	次の表現を用いて情報や自分の考え等を伝える。 ・受動態、 ・不定詞(名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法、 進行形・受動態・完了形の不定詞、原形不定詞)、 ・知覚動詞、使役動詞
後 期	中間考査	Lesson 5 Will Our Lives Change with AI? Lesson 6 Experience Madagascar's Wildlife	次の表現を用いて情報や自分の考え等を伝える。 ・動名詞、分詞構文や〈with＋O＋分詞〉 ・比較(比較級、最上級、同等比較、倍数表現、比較の強調、the＋序数＋最上級
	学年末考査	Lesson 7 Can We Go and Live on Mars? Lesson 8 Language and Society Lesson 9 Send Our Love to the World	次の表現を用いて情報や自分の考え等を伝える。 ・関係代名詞、関係副詞 ・仮定法(仮定法過去、仮定法過去完了) ・否定の表現 ・代名詞

5 学習評価

評価項目	観点①	観点③	観点⑤
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察	○	○	○
提出物	○	○	○
発表	○	○	○
レポート	○	○	○
小テスト	○	○	○
定期考査	○	○	
備考	○印はそれぞれの観点の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6 学習サポート (担当者から)

この授業では、『論理表現Ⅰ』の復習をしながら新しい表現を身につけていきます。言葉を使った活動はとても複雑です。その複雑なやりとりを外国語で行うために、多様な表現を学び、それを使えるようにすることが必要です。そのために文法事項や文型をしっかりと覚え、自分の考えなどを発表したり、発表への質疑応答ができるようになることが目標です。分からないことがあったら、担当の先生や友達に遠慮なく質問して疑問点を解決していきましょう。

令和6年度 情報科 情報Ⅰの学習(シラバス)

1 シラバス・単位数・履修学年・履修区分・使用する教科書

教科名	情報Ⅰ	単位数 2	2年・全
使用する教科書	新編情報Ⅰ(東京書籍)		
副教材等	Python入門(東京書籍)		

2 学習目標

みなさんは、社会に出て働く自分の姿を想像したことがありますか。社会で仕事をするためにはどんな力が必要になるでしょう。現代の社会生活において積極的に仕事をするためには、自ら企画して周囲を説得し、情報を発信する力がより必要です。またネット社会が常に身近にあり、現実社会とネット社会の双方で活躍することがますます重要になってきます。そこで今年度は以下のポイントを学びます。

- (1) 自分で課題を設定し、問題を解決するために自分で情報を収集・編集をし、身近な端末で情報を処理する。
- (2) 高度情報社会に対応するメディアリテラシーとグローバルに物事を考える視点を身につける。
- (3) 多様な価値や生き方を認めて、コミュニケーションする力を養う。
- (4) 情報デザイン、プログラミング、データサイエンスを学ぶ。

3 学習方法

毎時間集中して取り組み、成果を出す内容にしましょう。また長期休業中に出される課題はその後のプロジェクトに直結していますので、怠りなく取り組むことが大切です。

- ・ 実習に入る前の諸注意は聞き逃さないようにしましょう。段階ごとに進んでいく内容が多いので、途中のつまずきは後々まで影響します。
- ・ 次時に関連する内容については教科書をよく読み、予習しておきましょう。規定作品が完成したあと、自分でオリジナル作品を作成するなどして各自で復習すると力がつきます。
- ・ 授業の中でパスワードを設定することでセキュリティを確保する場面がしばしばあります。パスワードを紛失しないようにしてください。
- ・ 学校のパソコンには数々の制限がかけられています。不正アクセスによるデータ改変や消去、インターネットショッピング、データのダウンロード、CDの複製などは校内で禁止行為です。
- ・ 定期考査は主に教科書より出題します。定期考査は2回、マークシート方式です。

4 学習方法

学期	区分	学習内容、評価範囲等
前期	中間考査	授業内で実技試験
	期末考査	筆記試験
後期	中間考査	授業内で実技試験
	期末考査	筆記試験

5 学習評価

評価項目	観点1	観点2	観点3
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業観察・発表等	○	○	○
提出物・レポート等	○	○	○
定期考査・実技試験	○	○	
重み	○印はそれぞれの観定の重点項目を表しています。それぞれの観点ごとに、A十分満足できる、Bおおむね満足できる、C努力を要すると評価します。		

6. 担当者からのメッセージ

実習作品・筆記試験・平常点で評価します。締め切りに間に合わない作品は評価対象外です。充分注意すること。欠席したり、授業中に終了できなかったものについては自主的に作成する必要があります。